

JIMGAnews

第51号

目次

ISO/TC58/SC4ミラノ会議出席報告	1
第44回国際統合化委員会シンガポール会議	2
平成30年度下期 国際統合化指針および国際統合化文書の発行	3
山川発電所および鹿児島県防災研修センター見学研修報告	4
宇部興産株式会社 見学報告	6
会員紹介 一岩谷瓦斯株式会社 小松工場	7
北海道知事からの感謝状	8
北海道地域本部事務局統合および事務所開設のお知らせ	8

本部関連の活動スケジュール (2019年5月～6月)

開催日	時間	内容	開催場所
5月28日(火)	13:00～	2019年度 第1回 部門理事会・評議員会合同会議	経団連会館
6月12日(水)	13:00～ 15:30～	2019年度 セミナー 2019年度 定時総会	経団連会館

※詳細は本部までお問い合わせください。

ISO/TC58/SC4ミラノ会議出席報告



会議の様子

2019年2月11日～15日、イタリアのミラノで開催されたISO/TC58/SC4全体会議に出席しました。

TC58/SC4は、ガス容器関連の専門委員会（TC58）の下で高圧ガス容器と附属品の使用規格の作成を担当している分科委員会（SC4）で、JIMGAは年間を通じてSC4が担当する規格案に対して投票案を作成する等の取り組みを行っています。国際会議はSC4の活動の総括と次の1年の活動方針を決定する会議で、毎年日本代表として参加しています。今年は容器技術WGの三宅WG長とJIMGA事務局の岡田で参加しました。

参加国は、アメリカ、ドイツ、フランス、イタリア、日本、カナダ、ノルウェー、スウェーデン、イギリスの9か国、そして参加者数は、イタリア規格協会（UNI）を含め、総勢28名で議論が行われました。

今回の全体会議（2月14日）では、SC4事務局からのSC4全体の活動報告、各WGからの活動報告や見直し提案、定期見直しの実施状況と予定、その他委員からの提案事項等が議論され、17項目の決議と14項目のアクション事項の確認が行われました。また、9年間にわたりSC4の議長を務めてきたRichard Craig氏が今回で退任されることから、会議の最後にTC58の議長であるHepples氏より、Craig氏が議長を務めた期間の分科委員会の活動をまとめたプレゼンテーションが行われ、その成果を称えて委員全員の拍手でもって謝辞を決議するといった特別な会となりました。

なお、全体会議の前後の2月11日から15日の間に5つのWG会議（WG8、WG10、WG17、WG18、WG19）も行われ、これらにも参加して

技術情報の収集に努めました。これらWGでの規格改訂や新規制定の作業は、複合容器の再検査におけるAE、MAE技術の適用、大型容器・チューブへの対応となっていて、日本国内とは随分議論される段階が違うとの印象を受けました。

次回は、2020年2月10日の週に米国のダラス／フォートワース周辺にて、米国規格協会（ANSI）およびCGAのホストで開催される予定です。

（技術・保安部会事務局 岡田 恵二）



イタリア規格協会（UNI）のオフィスビル外観と入口付近の様子



出席メンバーの集合写真

第44回国際整合化委員会シンガポール会議



第44回IHCシンガポール会議の様子

2019年2月26日～27日の日程で、AIGAの主催により、第44回国際整合化委員会(International Harmonized Council : IHC)シンガポール会議がグランドコプソンウォーターフロントホテルにて開催されました。

今回の開催場所となったシンガポールは「シンガポール共和国」(The Republic of Singapore)が正式名であり、マレー半島の南端に位置する島国であり、東京23区とほぼ同等の面積の国土に約560万人が住む多民族国家です。

会議には、CGA(アメリカ)からは初参加のPresident & CEOのRich Gottwald氏を含め4名、EIGA(ヨーロッパ)2名、AIGA(アジア)7名(うち5名オブザーバー参加)、JIMGA(日本)3名、酸素製造者協会(International Oxygen Manufacturer Association : IOMA)のオブザーバー(Air Products、Air LiquideおよびLinde)3名の総勢19名が参加しました。

Milan Sarkar(AIGA)議長のもと、会議が進められました。自己紹介に続き、独占禁止法遵守宣言を確認し、前回の第43回IHCアントワープ会議の議事録の確認を行った後、IOMAグローバル委員会の報告がありました。各協会からの活動報告において、JIMGAからは、2019年JIMGA賀詞交歓会における会長挨拶、業界動向、産業ガス部門におけるRFタグの導入進捗、医療ガス部門における封キャップの紹介、その他日本国内の整合化活動状況を紹介しました。また、水素ステーションの活動状況、輸送事故に関する傾向と分析、長期停滞容器の回収結果についても紹介しました。

国際整合化活動については、作業負荷に関する状況の確認、今後の取り組みテーマの候補に関する議論を行い、現在推進中のテーマの進捗確認を行いました。特に整合化プロセスやIHC活動と国際標準との関係等に、全会議時間の約3割を費やし、今後のIHC活動に関するあり方について活発な議論が行われました。



会議出席者の集合写真



メンテナンス中の
マーライオン

この2日間の会議を終えた翌日、参加者は各自シンガポールの観光で気分転換を図りました。

残念ながら、マーライオン公園では、2月26日から約3カ月間、マーライオンのメンテナンス工事期間に入っており、放水シーンは見ることができませんでしたが、マリーナベイ・サンズから見渡すシンガポールの町並みは、国際的な都市国家であることを強く感じるものでした。



マリーナベイ・サンズ屋上からの
シンガポールの町並み

次回第45回IHC会議は、CGA主催（幹事協会）となり、2019年8月20日～21日、カナダのモントリオールでの開催が予定されています。

（国際部会 IHC対応WG長 山西 剛士／大陽日酸株式会社）

平成30年度下期 国際整合化指針および国際整合化文書の発行

平成30年10月以降、JIMGA基準・国際整合化指針1件、および国際整合化文書(参考文書)5件が発行されました。

1. JIMGA基準類・国際整合化指針

書籍名	基準番号	発行年月
酸素パイプラインシステム指針 改訂1版	JIMGA-T-S/18/18	H30.12

2. 国際整合化文書(参考文書)

書籍名	基準番号	発行年月
集結・集合容器及び可搬式容器の海上輸送指針 改訂1版	IHC-Doc/01/18	H30.12
スチーム・リフォーマー(水蒸気改質器)運転の安全指針 改訂1版	IHC-Doc/03/19	H31.2
酸素欠乏雰囲気危険性の危険性 初版	IHC-Doc/55/18	H30.10
HYCOプラントのガス漏洩検出とその対策手法 初版	IHC-Doc/56/18	H30.12
液体酸素供給用真空二重配管 初版	IHC-Doc/57/19	H31.3

JIMGA基準類は、国内法を配慮した文書で、JIMGA技術審議委員会の承認を得た文書です。また、国際整合化文書(参考文書)は、IHCメンバー4協会が国際整合化基準(英語)として発行した文書を技術内容の把握ができるように、一部(目次、はじめに、適用範囲)もしくは全文を日本語に翻訳し発行したのですが、各国の法規等の違いのため、内容は必ずしも日本の国内法に則ったものではありません。

会員のみなさまから『国内法に準拠した内容に改め、JIMGA基準とすべきである』というご要望をいただいた場合は、JIMGA基準化を検討いたしますので、ご意見・ご要望等をお寄せください。これらの文書をご覧になる場合は、以下のリンク先をご参照下さい。

<http://www.jimga.or.jp/front/bin/cglist.phtml?Category=7074>

<問合せ先>

担当：国際部会事務局 羽坂 智

email: shasaka@jimga.or.jp TEL 03-5425-2420 FAX 03-5425-2256

(国際部会 事務局 羽坂 智)

山川発電所および鹿児島県防災研修センター 見学研修報告

JIMGA保安対策WGでは、2月28日、3月1日に九州電力山川発電所、鹿児島県防災研修センターを見学しました。



蒸気タービン

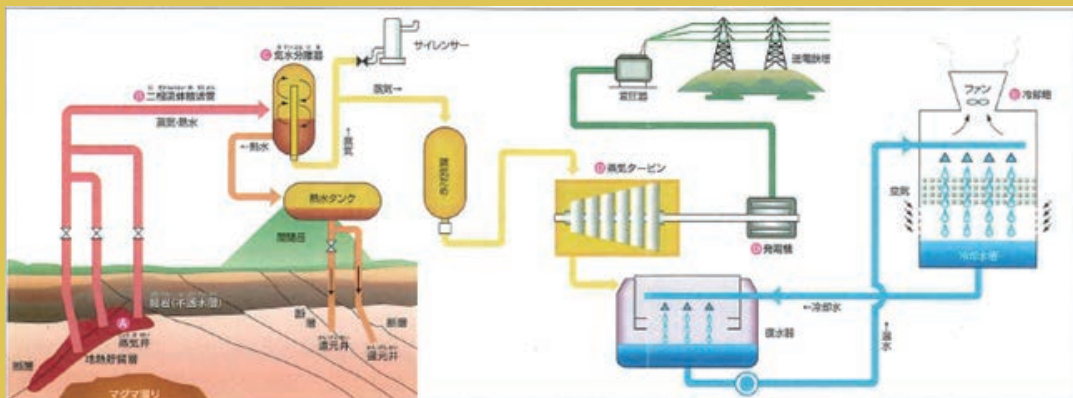
山川発電所の見学

山川発電所（鹿児島県指宿市）は、九州最南端に位置し、九州ならではの火山のマグマの熱を利用した、地熱発電所です。

地熱発電は、化石燃料を全く使わず、地下から取り出した蒸気を利用するクリーンな発電方法です。火力発電のボイラーの役割を地球が果たしているのです。地下の岩盤に閉じ込められ、マグマの熱で高い温度になっている地下水を蒸気井で取り出して、蒸気で、タービンを駆動させ発電させます。蒸気を取り出した残りの熱水は、再び地下に戻します。

山川発電所の特徴

- 営業運転開始：平成7年3月（九州では、大岳発電所、八丁原発電所について3番目、はちちょうぼる全国で7番目の地熱発電所です）
- 発電能力：30,000 kW（1万戸の家庭をまかなうことができる）
- 蒸気井の深さ：2,100 m
- 発電所の標高：海拔43 m（ほとんどの地熱発電所は山の中にあり、全国的に珍しい）
- 蒸気の使用量：225トン/時間
- 発電所の運転監視：約80 km離れた川内発電所から行っている。



山川発電所について詳しくはこちら→ http://www.kyuden.co.jp/effort_geothermal_t_yamagawa.html



見学研修会参加者（山川発電所）

後ろに見えるのは、
日本百名山の一つでもある
開聞岳がいのもんだげ（標高924m）です。



鹿児島県防災研修センターの見学

鹿児島県防災研修センターは、鹿児島県始良市の重富駅から約1.5kmの場所にあり、大型のモニター画面や模型の展示施設で、4つのブース（火山災害コーナー、風水害・土砂災害コーナー、地震コーナー、火災コーナー）に分かれています。

鹿児島県の災害への備えなどがわかりやすく展示され、県民（大人から子供まで）が研修できるところとなっていました。特に火山災害は九州ならではの災害であり、つい最近では平成30年8月に口永良部島が噴火したことは皆さんの記憶にも新しいことと思います。桜島、霧島山（新燃岳）等でも活発な火山活動が続いています。

また、体験研修として、応急処置（人工呼吸、心臓マッサージ、AED使用方法等）や、災害の特性に応じた備え方、防災マップ作りや、段ボールによる簡易トイレ作り等も行われていました。

（保安対策WG 事務局 岡田 恵二）



館内の様子（手前より火山、
風水害・土砂、地震、火災の展示）



見学研修会参加者（鹿児島県防災研修センター）

鹿児島県防災研修センターの詳細はこちら
<http://www.kagoshimabousai.jp/index.html>

宇部興産株式会社 見学報告

教育・研修WGでは3月12日に、今年度第6回WG会議を兼ねて、山口県宇部市の宇部興産株式会社を訪問し、工場内を見学しました。宇部興産(株)は、1897年炭鉱事業の組合会社として創業しました。その後、機械、セメント、アンモニア・肥料、化学、機械等へ事業を拡げ、現在は総合メーカーとしてグローバルに活動を展開しています。

まず、総合案内施設(UBE-i-Plaza)のプレゼンテーションルームおよび展示スペースにて、宇部地区工場の紹介および技術についての説明を受けた後、ケミカル工場西地区、東地区、宇部興産機械の順に見学をしていきました。

宇部ケミカル工場の東地区は1933年に宇部窒素工場として肥料農薬からスタートし、工業薬品や高純度化学品、医療原体・中間体等、様々な製品を生産しています。製薬メーカーと共同で行う創薬、自社医薬「カルブロック」「タオリン」の他、香料も生産しています。



展示スペースでは、様々な製品サンプルを見学することができました。

宇部ケミカル工場の西地区は1954年にカプロラクタム工場として設立されました。宇部地区の石炭を加工して利用しようということで硫酸を生産したのがケミカル工場の始まりです。硫酸4に対し、カプロラクタムが1できます。このカプロラクタムを利用し、ナイロンやポリイミド、リチウム電池のセパレーター等の先端材料を生産しています。この他ケミカル西工場地区敷地内の宇部興産機械では、自動車用等のプラスチック製品の金型を製造する射出成型機、軽金属部品を製造するダイカストマシンを製造しています。

敷地内には石炭火力発電の自家発電設備もあり、このうち一部では木質バイオマス発電も行われている他、夜間の余剰電力を生かし、医療廃棄物やスクラップを溶かしているということです。

最後に、伊佐鉱山(石灰石)と宇部敷地内工場(石炭)を結ぶ自社専用道路「宇部興産専用道路」の一部を往復し、工場内にある鋼製トラス橋「興産大橋」を横断しました。今回の工場見学にご対応いただきました宇部興産(株)ならびに宇部興産機械(株)の皆様には、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

WG会議

見学後、宇部市内のホテル会議室に移動し、教育・研修WG会議を行いました。

会議では、今期取り組んできた、e-ラーニング「高圧ガスの安全基礎知識」の見直しについて、理解度テストを中心に最後の詰めの討議を行い、充実した2日間を終えました。



見学研修の参加者

(教育・研修WG長 館 良知/エア・ウォーター株式会社)

会員紹介 —岩谷瓦斯株式会社 小松工場—

小松市は、石川県西南部に広がる豊かな加賀平野の中央に位置し、産業都市として発展し、南加賀の中核を担っています。東には霊峰白山がそびえ、その裾野には緑の丘陵地、そして田園、平野が広がっており、それを縫うように梯川かけはしかわが流れ、安宅あたかの海に注いでいます。



小松工場外観

沿革およびJIMGAとの関わり

当工場は、1978年（昭和53年）7月に岩谷ガス工業株式会社・小松工場として高圧ガスの



各種ガスの貯槽

製造（液化酸素、酸素ガス、液化炭酸ガスの充填）を開始しました。

1985年（昭和60年）にグループ3社の合併により岩谷瓦斯株式会社・小松工場となり、1998年（平成10年）4月には酸素・医療用酸素・窒素・アルゴン・炭酸ガス・混合ガス・消火用窒素（30MPa）の充填を行う総合ガスセンターヘリニューアルを行い、当社の北陸地区の拠点として高圧ガスの製造・販売を行っております。

JIMGAとの関わりとしては、高圧ガスの保安向上の意見交換の場として、当地区の諸活動に積極的に参加しています。また、医療ガス用「封キャップ-W22」の運用をイワタニグループとして4月1日から開始しています。

保安活動

当工場では、常に安全を第一として保安活動に尽力し、日々安全操業を継続しています。例年10月に実施される高圧ガス保安活動促進週間では、全社的に各工場で開催される「高圧ガス大会」において、工場従業員全員と本社の生産部スタッフが参加し、防災訓練を行い、万が一の事態に備え訓練を実施しております。

訓練は、雷の発生率が高いという当地域の特殊事情を鑑み、落雷による被害を想定した内容を教育に盛り込む等の工夫を凝らし、様々な災害への対応を想定した内容としています。併せて、毎年消火訓練を実施し、実際の災害等に備えております。

今後も、高圧ガスによる災害を防止し、公共の安全を確保することを目的とし、訓練等を充実させ、日々安全操業に努めてまいります。



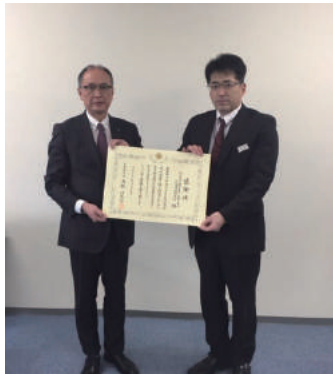
訓練の様子

（岩谷瓦斯株式会社 小松工場長 亀尾 敏孝）

北海道知事からの感謝状

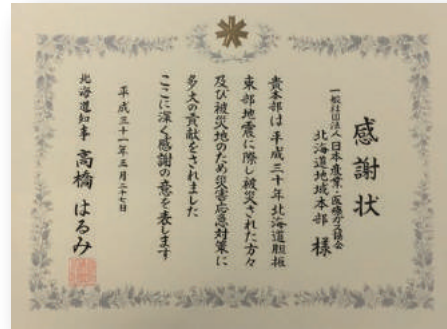
JIMGA北海道地域本部は、昨年9月の北海道胆振東部地震に際し、災害応急対策に多大な貢献があったとのことで、北海道知事から感謝状をいただきました。

本年3月27日に、北海道保健福祉部地域医療推進局



庄子事務局長と竹澤課長(右)

医務薬務課の竹澤孝夫課長と、医務薬務グループの伊藤達也専門員がJIMGA北海道地域本部に来訪され、竹澤課長より感謝状が贈呈されました。



感謝状

北海道胆振東部地震の際に、ご対応をいただきました北海道地域本部会員および関係者の皆様のご尽力に感謝いたします。

(専務理事 加藤 尚嗣)

北海道地域本部事務局統合および事務所開設のお知らせ

北海道地域本部はエア・ウォーター株式会社殿への業務委託により産業ガス部門、医療ガス部門、それぞれに事務局長を配し2名体制で事務局を運営しておりましたが、4月1日よりJIMGAが独自に運営する事務局を開設いたしました。

専任事務局長として庄子徳一事務局長のもと、北海道地域本部事務局を運営し、部門間の垣根なく地域における会員の声を受け止め、会員各社が安心して事業運営できる環境を創り出すべく事業活動を推進いたします。

事務局住所 : 〒060-0003 札幌市中央区北三条西1丁目11番地サンワビル7階

業務開始日 : 平成31年4月1日 (月)

電話番号 : 011-213-0051 F A X 番号 : 011-213-0052

案内図

